MJOT会報

ハンガリー特命全権大使　鍋倉眞一

ハンガリーに参りまして 2 年と 4 ヶ月になります。これまでにかなりの数の地方都市を訪れる機会がありましたが、中にはコーラスで「さくらさくら」や「兎おいし」などの日本の歌を綺麗な日本語で歌って歓迎してくれる所もありました。日本の歌を聴き、思わず涙が出るほど感動しましたし、ハンガリーがいかに親日的な国であるか肌を持って体験することも出来ました。

さて、2009 年は日ハ両国にとって外交関係開設 140 周年及び外交関係再開 50 周年という重要な節目との年にあたっています。これを記念して、秋篠宮同妃両殿下が 5 月頃にハンガリーを、ショーヨム大統領が 12 月に日本を訪問される予定となっております。全部で 60 以上の様々な日本に関連するイベントがハンガリーで開催されますので、ハンガリーの方々に日本をより身近に感じていただく絶好の機会となると考えております。中でも、11 月 17 日には、ブダペスト市と日本が共同で実施する「エリザベート橋ライトアップ事業」の完成式典が予定されております。二国間の良好な関係を象徴する明るい光が橋を恒久的に美しく彩ることとなります。また 10 月には、日ハ両国で記念切手が共同で発行されることにもなっています。

今年の 1 月からは「日本文化発信プログラム」という日本政府のボランティアプログラムが新たにスタートし、7 名がハンガリーへ派遣されました。彼女達は MJOT とも連携しながら、首都や地方において日本語教育や日本文化の発信に努めています。この新たなボランティアが日本語教育界に大きく貢献してくれるものと期待しています。

この２年４ヶ月の間に、様々な機会を捉えて日本語を学ぶハンガリーの学生の皆さんと接触するチャンスが有りました。そのたびにハンガリーにおける日本語教育の裾野の広さ、底の深さに感心したりビックリしたりしております。これも MJOT 会員の皆様の常日頃の熱心な日本語教育のたまものと感謝致しております。会員の皆様には 2009 年という記念すべき年を契機としまして、次世代の両国の友好関係の更なる発展を担う若者達の教育に更に一層のご努力を戴きますようお願いいたします。

MJOT も発足以来 9 年を迎えると伺っております。会員の皆様のご活躍でハンガリーの美しい春のように、若者達が色とりどりの美しい花を咲かせますことをお祈りいたしております。

会員のみなさま

MJOT 会長　佐藤紀子

会報復刊ならびに第 14 号発刊に際して、2009 年度新運営委員を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ハンガリーは、現在、世界的な経済危機の影響を受け、不安定な経済政治状況にあり、日本語教師を取り巻く環境も大変厳しいものがあります。しかし、そうした中でこそ、日本語教育というソフト面に携わる私達日本語教師の役割は特に大きなものがあると考えます。私達は、言葉を介して、物事を見、考え、そして感じています。五感という感覚でさえ、言葉に影響を受けています。日本人は、「もののあわれ」という言葉があるからこそ、桜の花を愛で、桜吹雪に人生を合わせて深く感動するのでしょうし、その美しさ、はかなさ、哲学的深みを子孫や世界中の人々に伝えていけるのだと思います。そういう意味では、母親のお腹にいるときから聞いて育った母語の大切さは、言うまでもありませんが、成長する過程で新たに学習する第二言語・第三言語も人間の成長や人格形成にとって大変重要な意味を持っています。言葉は、コミュニケーションの手段であるだけではなく、目に見えない感情や思想、伝統を表す文化でもあります。一つの言語を学習することはその文化が拠って立つ精神、基礎を学習することであるといえるでしょう。ハンガリーに"Ahány nyelven tudsz, annyi embert élsz."（「使える言葉の数だけ人生がある。」）という諺がありますが、豊かな精神生活を送るためにも、外国語学習は欠かせません。

先日、イスラエルのガザ侵攻後にエルサレム賞を受賞した村上春樹が、日本の反イスラエル団体からの受賞ボイコットの要請にも関わらず、イスラエルに赴き、戦争に反対する演説を行ったニュースを聞いたとき、言葉の持つ力や意味を深く考えさせられました。対話を拒み、扉を閉ざしてしまうボイコットではなく、異なる見解を持つ相手の中に飛び込んで、堂々と自分の意見を表明するという道を選んだ彼の対話の姿勢に心を打たれました。言葉は、相手を攻撃する武器にもなりますが、人々の心を動かす手段にもなりうるのです。

教育や文化は、物質的精神的に苦しい状況にあるときこそ、そこから抜け出す道を教えてくれ、疲れた心を癒してくれる光となるものです。昨今の経済危機の中で、そうした言葉や文化を伝える日本語教師の責任の重さを感じる今日この頃です。

教師会は、昨年来日本・ハンガリー協力フォーラムの支援もあり、会員の多くの皆様のご協力を得て、これまでにない大規模多岐な事業を進めてきました。特に、今年は日本とオーストリア・ハンガリー二重帝国国交樹立 140 周年ならびに日本とハンガリー国交再開 50 周年記念に当たり、数多くの会員の皆様が毎年参加されている MJOT 最大のイベントであるスピーチコンテストをさらに充実したものにしたいと考えています。また、今年度は、新規事業として日本語キャンプも計画しています。運営委員会では、今年度も昨年同様会員の皆様とともに MJOT の活動・事業を大いに盛り上げていく所存です。運営委員一同、よろしくお願いいたします。

（MJOT って何？ 若い会員の方が増えましたので、MJOT の沿革をお伝えします。）

ハンガリー日本語教師会(ＭＪＯＴ)

（１） **正式名称： ハンガリー日本語教師会**

原語名： **Magyarországi Japánnyelv Oktatók Társasága**

（２） **設立の背景：** ハンガリーにおいては、1920 年代から日本語教育が始まったが、1980 年代半ばまでは、限られた高等教育機関及び成人教育機関でしか日本語教育は行われていなかった。1980 年代後半になると、小学校での日本語教育が始まり、その後中等教育においても日本語教育が導入され、1990 年代に入って、学習者数、教育機関数、教師数が飛躍的に増加した。しかし、このような日本語教育の普及にもかかわらず、教育機関の間や異なる教育機関の教師相互の交流は殆ど行われておらず、教師間のネットワークは存在していなかった。そこで、ヨーロッパ日本語教師会にハンガリーから参加していた教師を中心に、国際交流基金ブダペスト事務所の支援を受けて、ハンガリー国内の教師間のネットワークの拡充と教師の質の向上を目指し、2001 年 2 月にハンガリー日本語教師会が発足した。発足と同時に代表と運営委員が選出された。ハンガリー日本語教師会は、2002 年 9 月に中東欧では初めてヨーロッパ日本語教育シンポジウム（第 7 回）をヨーロッパ日本語教師会との共催でブダペスト商科大学にて開催した。会員は、初等教育、中等教育、高等教育に携わる者、個人教授をしている者（正会員）、日本語教師を目指す学生（準会員）及び国外在住の特別会員から成っている。2005 年 1 月には法人化が実現し、「非営利社団法人」として登記されている。

（３） **目的：** ハンガリー日本語教師会は、ハンガリーにおける日本語教育の振興を図り、日本との相互理解及び周辺諸国との交流を深め、日本語教育を通じて民族間の文化交流に寄与することを目的とする。研究、研修、また会員相互の啓発活動を通じてハンガリーにおける日本語教育の水準の向上に貢献する。

（４） **活動内容（これまでの成果）：**

① 日本語教育セミナー、勉強会の開催
② スピーチコンテストの開催
③ 日本語教科書、教材、副教材の作成、出版
④ 大学入学資格試験問題集作成、出版
⑤ 日本語・ハンガリー語語彙集の編纂出版
⑥ 言語フェア（パレード）への参加
⑦ 日本語講座
⑧ ヨーロッパ日本語教師会との連携

（５） **活動計画 （今後の活動の広がり）上記に加えて：**

① 日本語キャンプ
② 中東欧の日本語教師会との連携

MJOT会員のページ

（MJOTの会員を毎回2～3名、このページでご紹介します。次は貴方の番です！）

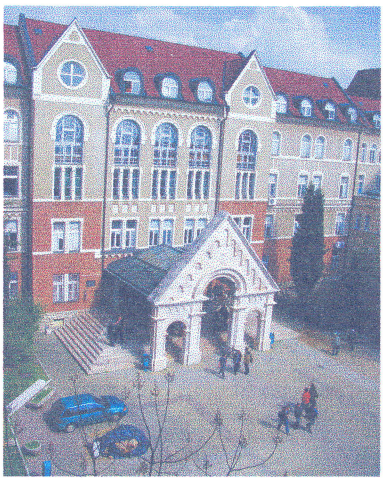
初めまして

ペーチ大学アジアセンター　岩浪　舞

大阪にある関西外国語大学で日本語を副専攻として学び、卒業後に日本語ＴＡインターンシッププログラムという派遣プログラムで２００６年９月に派遣され、ハンガリーでの滞在は今年で３年を迎えました。現在、ペーチ大学の日本語のクラスは、去年から関西外大より派遣された植松智子さんと、私が担当させていただいています。

現在私が担当させていただいているクラスは、レベル上・中・初級（２クラス）の計４つのグループからなっており、多くの大学生（時々高校生が混じっていたりします）が日本語のクラスに週２回やって来てくれています。ほとんどの学生が、挨拶やひらがな・カタカナからのスタートで、使用教科書は「げんき」です。週２回なので、時間の都合上、一学期で３～５課までしか進むことができませんですが、来たばかりに担当させてもらったクラスの学生が、２年半たった今、敬語を話せるようになっており、「継続は力なり」という言葉をしみじみと感じています。各々の専門教科の勉強に専念しながら授業に参加するのは大変だろうなとは思いますが、それであるからこそ「日本が好き」という声や、日本文化に対する興味はとても強い傾向にあると思います。日本語の勉強を始めた動機として、アニメや漫画、また音楽などの娯楽から得られる日本文化はやはりここでも大人気のようです。

残念ながら、ペーチで日本人と接し話す機会は教室外でそんなに多くはないだろうと思うので、もう少し色んなチャンスが彼・彼女たちにあればいいなと日々工夫を重ね、限られたクラスの中では会話中心のクラスを心がけています。とても熱心な学生が多く、日本の写真などを見て、「いつかは行ってみたい」と言う声があがります。またペーチには日本食レストランもないため、学期の終わりに日本食パーティをしたりもしています。そんなところ、近年ではペーチ大学から日本の大学への留学もチャンスも増え、行く学生・また帰ってくる学生が出てくるようになりました。先日も九州の大学に１年間留学していた学生に写真のスライドショーとともにプレゼンテーションをしてもらい、大変大好評でした。教師としても多くの学生に挑戦してもらい、ここで出来ないことを経験し、その帰国後伝えてもらい、他の学生への刺激となれば・・・と思っています。



来た当時はハンガリー語もほとんどわからない状態だったうえに、教師経験も全くありませんでしたが、生活にやっと慣れてきて、学生と学び合える日々の醍醐味を感じられるようになってきたところです。また、主にヨーロッパからやって来る留学生とハンガリー語を学んでおり、気付くとハンガリー語の宿題に追われている時もありますが、頑張っている学生に負けないように勉強できることに感謝しています。

小さくて、可愛らしく、にぎやかな街、ペーチ。ぜひ一度街にいらした際は、私たちのクラスにもお越しくだされば光栄です。

（写真：ペーチ大学）

ようこそ、ニィーレギハーザへ

吉澤　幸代

みなさま、ごきげんよう。東北部ニィーレギハーザにも、春の気配が到来しました。ニィーレギハーザってどこだろう、という方に簡単にご紹介しますと、ここは東北部、サボルチ・サトマール・ベレグ県の県庁所在地で、ブダペシュトからはインターシティで約3時間ほどの距離です。ルーマニア、ウクライナの国境に近い、人口約12万人のこじんまりとした地方都市で、国内でも有数の果物の産地です。ブダペシュトでも「サボルチのりんご」「サトマールのプルーン」といえば、おいしい果物の代名詞となっているのではないでしょうか。現在、日本語教育はニィーレギハーザ大学を中心に行われていますが、元々、カンテムス・コーラスの本拠地として知られています。

日本語教育を行っているといっても、まだまだ歴史は浅く、2004年秋からスタートしました。加えて、大学で専任講師が常勤になったのは、昨年秋からです。

幸い、日本語コースが始まって以来、学習者は増え続けています。これまで、最長2学期間しか続けて受講できなかったのが悩みの種だったのですが、今年の2月から週4時間、最長6学期間、継続して勉強できる環境が整いました。こうして、徐々にですが、ニィーレギハーザでも安定した学習機会を提供できるようになってきました。また、大学の一部門であるKépzési és Továbbképzési Intézet(KTI)では、今年1月から学外の学習希望者向けに、語学学校スタイルの講座も始まりました。現在、初級コースでは小中高校生が、JLPT3級対策コースでは、高校生、大学生が頑張って勉強をしています。

ニィーレギハーザの魅力は何でしょう。無論、トカイに近い、パーリンカがおいしいということだけではありません。個人的に、伝統を背負っていない、ということをたいへん肯定的に考えています。つまり、新しいことに、どんどんチャレンジできる環境といえます。学生も教師も試行錯誤を重ねて、そこから、良いものを、ニィーレギハーザらしいものを作っていこうという気持ちが、いつもあるのです。日本語の勉強が楽しい、楽しいから、ちょっと難しくても頑張る、そういった良いチェーンリアクションを起こしたいと思っています。その試みの一つに、美術系の学生向けに行っている「日本語＋日本の紙工芸」の授業があります。折り紙や切り紙、伝統的な文様を学んで、着物のデザインに挑戦したり、コンテストをしたり、これまでの日本語学習とは全く違う角度から、日本と日本文化理解に取り組んでいます。

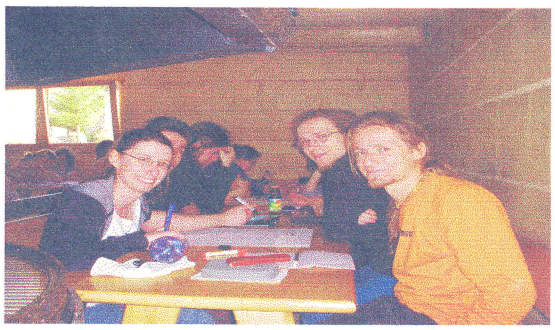
昨今、ニィーレギハーザからもブダペシュトの大学の日本、日本語学科に進学する学生が増えてきました。学生がぐんぐん先に行ってしまいますから、教師も一生懸命その後を追いかけざるを得ない状況です。ですが、これからも、そこから「私たち」らしいものを作っていけたら良いと思っています。その一例ですが、大学生と日本大好きクラブ「にゃぱ～んクラブ-Nyí(regyháza)+(J)apán Klub」が中心となって行っているイヴェント、「ミッションインポッシブル」では、毎回不可能と思われることに挑戦してきました。これまでは、何とかすべて「ミッションコンプリート」してきました。次のミッションは「ボグラーチで日本料理は作れるか」となる予定です。少々遠いですが、ニィーレギハーザではいつでもお客様大歓迎ですので、ぜひ、みなさまも遊びにいらっしゃいませんか。心よりお待ちしています。

MJOTキャンプ実行委員会より

①「ポーランド日本(語)キャンプ」視察報告

４月１５日から１９日まで、ポーランドのザコパネにおいてポーランド・チェコ・スロバキアの大学で日本学を専攻する学生対象の「日本(語)キャンプ」が行われました。ザコパネはまだ桜の蕾も固い高地でしたが、連日好天に恵まれました。

三カ国から参加した学生は１３６名、日本語レベルは１年生の初級から５年生の上級まで様々でした。１６日と１７日の両日は 9:00～14:15 に日本学の講義。担当教授が英語で講義をしました。学生はそれぞれ興味のある分野の講義に出席し、熱心に聴講していました。15:45～18:00 はレベル毎に分かれて日本語の授業。



学生にとっては、いつもと異なる環境で学びながら他大学の学生と交流できる機会であった事の他に、通常では受講できない他大学の教授の講義が受けられ、他大学の日本語教師から学べる素晴らしい企画の「日本(語)キャンプ」であったと思います。また、スタッフの一人として参加した私にとっても、ポーランド、チェコ、スロバキアの学生との交流は楽しいものでしたし、ハンガリー周辺諸国で日本語を担当する先生方と親交を深められたことは大きな収穫となりました。

ハンガリーでも今夏、初の「日本語キャンプ」を計画していますが、これは日本文化や日本語に興味を持っている人に「学ぶ・体験する」機会が提供できる意義ある催しであることを今回の視察を通して確信しました。そしていずれはハンガリーの「日本語キャンプ」も国境を越えて、国際色豊かなキャンプとすべく、将来像を念頭に入れて初回より企画・運営していく方向性も見えた視察でした。

この度、ポーランド・キャンプ視察の機会を与えられた事、また参加にあたり日本-ハンガリー協力フォーラム事業よりサポートを頂けました事にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

日本語キャンプ実行委員会　後藤史与

②第三回「日本語キャンプ」実行委員会

日時：2009年5月1日（金）9：30～
場所：未定
議題：1)キャンプ応募者数
　　2)キャンプ実施可・不可の決議
　　3)その他

MJOT運営委員会　会計より

２００８－２００９年の会費未納の会員は研修会等の席上で直接会計に支払うか、銀行振り込みで年度内の納入をお願いします。
支払い方法、お問い合わせは会計までご連絡下さい。

会計：Kiss Sándorné(Ilona)
kissneilona@hotmail.com

MJOT会報　編集部より

「会報15号」は2009年8月に発行予定です。会員の皆さんの寄稿を受け付けています。担当されている授業の様子や日本語教育関係の耳寄りな情報など、ドンドンお寄せ下さい。

MJOT会報 14号
発行：2009年4月
編集：後藤史与
発行人：ハンガリー日本語教師会（MJOT）